

謹賀新年

新年の
ご挨拶

理事長 しら いし やすし 白石 靖

あけましておめでとうございます。昨年は皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。2025年も社会福祉法人千寿会は、地域の人たちに貢献し、ますます多くの「笑顔」と出会っていきたいと思います。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

躍進に向けた土台固めを

昨年を振り返りますと、悠優みふねの開設という、法人にとっての一大プロジェクトが行われる中、職員一同とても忙しく慌ただしい日々を過ごしました。地域の皆さんからも、期待の声をたくさんお寄せいただき、私たち全員にとっても大きな励みになったことでしょう。おかげさまで、4月のオープンから3か月あまりで有料老人ホーム部門が満床になる快挙を達成しました。一方で、部署によっては人事異動などで人手不足の状態を招いてしまい、職員一人ひとりにかかる負荷

が大きくなってしまったことを申し訳なく感じています。まだスタートしたばかりで課題もたくさんありますが、皆さんと一丸になって乗り越えていきたいと考えています。

悠優みふねが開設したことで、千寿会の事業戦略の基礎ができました。人口減少がますます進む中、美里町と御船町、嘉島町にわたる広域的な事業が展開されていくことで、法人の活動拠点が拡大し、数年後に入職する後輩職員たちが安心して働いていける環境が整ってきたと感じています。

より良い未来を見据えて

2025年を迎え、私たちは新たなチャレンジをしていこうと考えています。

1つ目が、職場の業務改善を目指した「サポーター制度」の導入です。1日2時間、いろいろな人が、働きたい日・時間に仕事をする。フルタイ



ムで働くことが難しい子育て中の主婦（夫）や学生、すでに定年を迎えた年配の方など、さまざまな立場の人たちが、そのライフスタイルに合わせて自由に働ける制度です。今まで介護の仕事はハードルが高いと思っていた方にも、広く参加していただける仕組みにしました。内容はイートサポ（朝晩の食事のアシスト）、バスサポ（入浴のアシスト）、リビサポ（居室清掃やシーツ交換）、コミサポ（レクレーションや話し相手）など多数用意しています。例えば、夕方のイートサポは、御船の近くにある音大の学生さんにアルバイト感覚で来てもらえれば、就職活動にも役立つ経験を提供できます。こうしたサポーターの方たちが施設運営をアシストしていただければ、正規の介護職員は無理をせずに本来の業務やミーティング、記録などに専念できますし、利用者様にとってもメリットは大きいはず。1日2時間のレクレーションを例にとっても、1日8時間のマラソン状態の職員が息切れしながら行うのと、その2時間のためだけに全力疾走できるサポーターが行うのでは、熱量に違いが出てくるでしょう。人を喜ばせることが自分の楽しみにもなる。そうした体験を多くの人に味わってほしいと願っています。

2つ目が「法人のブランディング化」。千寿会を多くの人に知ってもらう活動を行い、質の高い人材の確保や利用者の集客に結びつけていきたいと考えています。具体的な動きの一例をあげると、FM軽井沢ラジオ大学（全国で視聴できます）の熊本支局として活動を始めることになりました。私た

ちの法人がパーソナリティとなり、熊本で福祉の活動を行う個人や企業を取材し、ラジオで紹介していく予定。取材や放送を通して、さまざまな人たちとのつながりを作っていきたいと思っています。

3つ目が、外国人の雇用と、夢をかなえるためのバックアップです。今年も海外から6～8名の仲間が加わりますから、ぜひ歓迎してください。皆、日本への強い憧れと働く意欲をもってやってきます。夢の実現に向けて、法人をあげて日本語教育や介護福祉士資格の取得サポートをしていきたいと思っています。

長く、軽やかに走り続けていく

1994（平成6）年に開設して以降、成長を続けてきた千寿会は、この5、6年間で安定期を迎えました。この安定した期間に、さまざまなチャレンジや変革を行わない企業は、徐々に衰退期へと入っていきます。2025年は、千寿会が開設されて31年目。今年を「変革元年」として、より良い未来を作っていく第一歩目を踏み出したいと思っています。

千寿会が、皆さんにとって働きがいのある職場であり続けるために、一緒に力を合わせて前へ進んでいきましょう。

2025年が、皆様にとって良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年も、何卒よろしくお願ひいたします。



仕事のこだわり

～利用者様の笑顔のために～

食べることは生きること。今回フォーカスするのは、
陽光園で提供する約120人分の食事作りを一手に担う陽光園栄養課の中村さんです。
口から食べる喜びを一人でも多くの利用者様に伝えたい。
真心と使命感を胸に奮闘する、調理の匠に迫りました。

大切に
している



なかむら かなこ
陽光園 栄養課 中村 可南子さん

現在の業務内容

利用者様用の**食事作り全般**を担当しています。メニューを考案するのは、管理栄養士の方々。私は献立通りに調理して、**食感や盛り付けに工夫**を加える役回りです。調理だけでなく、配膳や後片付けまでを一括して担っています。



職場でのコミュニケーションについて

ぴったり合わせる、呼吸も視線も

調理場では帽子とマスクが必須です。ほとんど顔が隠れてしまう装いですが、コミュニケーションには不思議と不便を感じません。**ふとした表情で中間の変化に気づくことも。常に笑顔で挨拶**することは、**互いのモチベーション向上**にもつながっています。今後は多様な人材の確保にも期待。利用者様の「美味しい」に寄り添う健全な食事を旨として、一層精進してまいります。

調理へのこだわり

ふんわり・ほろほろのヒミツは.....

利用者様の中には、塩分制限のある方もおられます。そのため、盛り付け前には**必ず他の職員が味見**をしています。具材の**切り方や茹で方にも工夫**。肉じゃがに入れる野菜はつぶしやすさを考えて、少し柔らかめに。ソフト食には、とろみを加えることもあります。**素材ならではの味をどなたにも届けられるよう、心がけています。**

ワクワク感をひとさじに

もう一つ、忘れてはならないのが見た目の美しさです。特に敬老会などのイベント食では、舌だけでなく、**目でも楽しめるワンポイント**を。**季節感やカラフルさ**を取り入れ、心が浮き立つような仕上がりを目指しています。

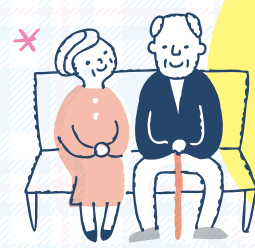
やりがいを感じる瞬間

空っぽのお皿が心の栄養に

職場はキッチンだけではありません。配膳・下膳時には、直接利用者様と言葉を交わすことも。「美味しかったよ」、「今日のメニューは大好き!」とお声をいただく、やる気がグッと上がります。もしかすると、利用者様のお顔が最も輝くのは食事の時間かもしれません。献立を見てふっと頬を緩ませる方。不自由な手で懸命にお箸を動かす方。お体が弱って、ゼリー食に移行される方。お一人おひとりの食事風景を拝見していると、胸がいっぱいになることもあります。より多くの方に、**できるだけ長く口からの摂食**を続けていただきたい。そうした願いを込めて、日々の食事作りに励んでいます。



前田さんに聞く! 傾聴力の秘訣



コミュニケーションを取る上で、話をよく聞き、臨機応変な対応ができると評判のある前田さん。今回は、利用者様やご家族様、上司・職員に対してどのような工夫をして対応しているのかをお聞きしました。ぜひ、前田さんの「傾聴力の秘訣」を参考にしてみたいと思います。

特別養護老人ホーム陽光園東館
主任
前田 ゆきのさん

現在の業務内容

東館の利用者様30名のケアに加え、介護スタッフへの指導や助言など、職員の育成業務も担当。また、ケアの方向性についての協議や会議の開催・業務差配・勤務調整も含め、マネージャーのサポートも兼務しています。

利用者様と接するときのポイント

傾聴する姿勢の徹底と「利用者様の時間」に声かけ

時間が許す限りお話を伺い、会話のスピードは相手に合わせています。その際、視線を利用者様に合わせ、お話されている間は遮らないことがポイントです。話を聞く姿勢を取り、**頷いたりオウム返しをしたりして「そうですね」と言う**と、利用者様が安心して話してくれます。あるお話好きな利用者様がいらっしゃるのですが、ほかの方がいるとなかなかゆっくりお話できません。ホールにいらっしゃるときはテレビを観たり、職員と話したりして過ごされるため、**利用者様がお部屋に戻られたときを「利用者様の時間」と考え、そのタイミングでお声かけ**しています。利用者様が好きな踊りやカラオケの話をされるときに、しっかりお聞きするととても喜ばれます。

諦めずにコンタクトを取り続けられ、いつか心を開いてくれる

利用者様と接していると、ときにはきつい言葉が返ってくることも少なくありません。私自身、「あなたは好かん。どっか行きなっせ」と言われたことも。しかし、「嫌われているから」と、**相手と距離を取れば溝は深まるばかり**です。人間なので、苦手や嫌な気持ちがあるのは当たり前。**介護のプロとしての負けない気持ちと忍耐力を胸に、逃げずに向き合い続けられ、自ずと相手も受け入れてくれるようになるはず**です。そのときの達成感が、ステップアップに繋がっていると思います。



臨機応変に対応するためのテクニック

利用者様の反応を確認して適切なタイミングを計る

利用者様との信頼関係ができるまで話を聞き、言われたことに対応するようにしています。また、認知症の利用者様に関しては、重症度によって話が伝わらないことも。そのようなときはまず手を握って安心感を伝え、利用者様の話を受容します。私の思いを伝えたいときは「今からこうします」と伝え、**拒まれたり伝わりにくかったりする場合は無理をせず、違うタイミングでもう一度お声かけ**。言葉で返ってこなくても、態度や表情でどう思っているのかを理解することができます。会話が難しい方とのコミュニケーションは、とにかく接することが大切です。毎日声をかけ、表情や仕草で何を伝えたいのかを考え、声なき声に耳を傾ける。相手にも私が聞こうとしている姿勢は伝わるため、諦めない心と弛まぬ努力が欠かせません。

他の職員さんと円滑に情報共有をするための工夫

傾聴することを優先しながらコミュニケーションを取る

話しやすい雰囲気づくりを心がけ、職員とは常にコミュニケーションを取るようになっています。休憩中や夜勤中は職員とゆっくり話せる時間帯。悩んでいそうときは「どうしたの」と確認したり、表情で察して様子を見たりとコミュニケーションを取るうちに、次第に打ち解けて話をしてくれます。他に工夫している点は、**頼みやすい、わからないことを聞きやすい雰囲気を作る**ことです。例えば、自分と異なる意見が出た際は、まずは話を遮らずに聞き、**そのあとに私の思いを話すのが大事**。そうすると円滑なコミュニケーションが取ることができます。